

京大坂道

高野山の歴史の大部分を通じて、京大坂道は山中にある仏教の聖地を参詣する人々に最も人気のあるルートでした。京大坂道は、高野山へ続く他の 6 つのルートに比べるとよりなだらかで、江戸時代（1603-1868）の終わりまでは、10 人の参詣者のうち 8 人はこの歩きやすい道を選んでいました。しかし、今日では町石道のほうがよく知られています。

その名にある「京」と「大坂」は、京都や大阪地域からの参詣者がこの道を使って女人堂に参詣していたことからきています。かつて、女人堂のような建物がいくつか高野山周辺の道沿いに建てられており、今でもその跡が残っています。女性は高野山の敷地に足を踏み入れることが禁じられていたため、千年以上にわたって、女性の参拝者はこのような建物までしか参詣道を進むことを許されていませんでした。京大坂道の女人堂は、現存する唯一の女人堂です。

学文路駅から女人堂までの道はおよそ 10 キロメートルで、高野山の中心地はわずか 1 キロメートル先にあります。京大坂道は所々舗装されており、勾配が比較的緩やかなので、経験がそれほどないハイカーにぴったりのルートです。この道には、4 キロメートルごとに石の道標があります。

このルートの終点に近いところで、道は旧不動坂に合流します。旧不動坂は、女性の参詣者が女人堂に行くのに使われていました。